

# 【様式1】事業評価及び今後の方向性

## 評価について

- A:計画通り事業を実施できた
- B:ほぼ計画通り事業を実施できた
- C:事業を実施できなかった
- D:事業廃止

## 今後の方向性について

- ①拡大・改善:内容を拡充して実施する事業または現在の内容や手法等を見直し、改革・改善を実施する事業
- ②現状維持:現状を維持していく事業
- ③縮小:縮小 環境変化や有効性の観点から、縮小する事業
- ④廃止:環境変化や有効性の観点から、廃止する事業
- ⑤終了:計画により終了する事業

これまでの評価 ← → 次期計画に盛り込む内容について  
 ※評価で「D:事業廃止」とした事業については、記載不要

No.	①基本目標	②施策	③具体的な取組名	内容	担当課	中間見直し以降の事業の実施状況	評価	④現状と課題	方向性	⑤内容(具体的な方向性)	③具体的な取組名(変更)	次期計画への掲載希望	
入力内容	基本目標I 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実	施策1 確かな学力の定着を目指す「学び合う学び」を基本とした授業の推進	互いに関わり合い学び合う授業の実施	教員が一方的に知識を教えるのではなく、児童生徒が相互に学び合い、多様な考えにふれることで、新しい気づきや思いやり・他者理解を深める「学び合う学び」の授業の実現を図ります。	〇〇〇〇課	※現行計画に記載されている施策内容を踏まえ、取組の実績及び評価の記載をお願いします。  ※右記の評価は、上記「評価について」から該当する項目をタブから選択してください。	A	※現行計画に記載されている施策を推進してきた上で問題や課題、現状について記載をお願いします。  ※右記の方向性は、上記「今後の方向性について」から該当する項目をタブから選択してください。	①	※今後取組を推進するための方向性や取組内容の見直しについて記載をお願いします。  ※方向性で「④廃止」「⑤終了」を選択した場合は入力不要です。	※具体的な取組名を変更する場合のみ、入力してください。	※次期計画への掲載について、タブから選択してください。	
	現行計画に記載されている基本目標、基本施策、施策、施策の内容入力しています。												
	178	基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策33 文化財の保護	文化財の指定・保護	新たに保護すべき文化財や散逸、廃棄の恐れのある古文書等を見出す調査を行い、指定・保護を進めます。	文化財課	・令和5年度から令和7年度の3か年で、市内8寺院を訪問し、新たに保護すべき文化財や古文書等の有無について調査を行いました。(令和4年度は実施せず) ・指定候補物件に至る物件はこの3か年では見つかりません。 ・明治21年に愛知県によって小牧市内に建設された小牧市創垂館について、国の登録有形文化財(建造物)の登録に向けて、令和6年9月に登録手続きを行い、造形の規範となっているものとして、令和7年8月に登録されました。	B	・神社や寺院が所蔵する資料以外にも、新たに保護すべき文化財の調査対象を広げていく必要があります。 ・指定候補物件には至らないものの貴重な文化財が現地調査では見つかり、これらの文化財も保護していく必要があります。	②	・新たに保護すべき文化財や散逸、廃棄の恐れのある古文書等を見出す調査を行い、指定・保護を進めます。 ・本市の豊かな歴史やそれにまつわる文化財について周知に努め、文化財の保護・保存に対する市民の関心や理解を高めることにより、新たな文化財の発掘につなげていきます。		①掲載する
179	基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策33 文化財の保護	埋蔵文化財の調査・記録保存	埋蔵文化財の貴重な情報を得るため、周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合は、適正な調査・記録保存を行います。	文化財課	・工事に際し、事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するかの有無照会や、文化財保護法第93条の届出及び第94条の通知の提出に対し、取扱いを決め、事業者へ回答をしています。上記届出及び通知に対して、遺構に影響を及ぼす場合には、その程度に応じて、本発掘調査、範囲確認調査、工事立会を実施し、遺跡の情報の記録を行っています。 ・また、発掘調査で見つかった埋蔵文化財や遺構の様子について、周知・公開に努めました。 ・埋蔵文化財包蔵地について、適切に開発前の届け出がなされるよう、市HPにおいて、文化財保護の必要性や、市内の周知の埋蔵文化財包蔵地がわかるマップをはじめ、開発までの手続きの流れをわかりやすくまとめた資料を新たに作成・掲載し、周知に努めています。	A	・公共事業のスケジュールに合わせて発掘調査を行うため、限られた期間で効率的かつ効果的な調査を行う必要があります。 ・文化財保護法においては民間業者の開発に伴う埋蔵文化財発掘の届出については工事着手の60日前までに提出することとしていますが、着手直前の届出となることもあり、発掘調査の日数確保や工事立会のスケジュール調整が困難となることがあります。	②	・埋蔵文化財の貴重な情報を得るため、埋蔵文化財保護の必要性についてさらなる周知に努めるとともに、周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合は、開発事業者と十分な協議・調整を行い、適切に調査・記録保存を行います。 ・市内埋蔵文化財の発掘で得られた貴重な情報は、遺跡の情報の正確な記録に努めるとともに、こまき歴史発見館等を活用し、周知公開に努めていきます。		①掲載する	
180	基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策33 文化財の保護	文化財の修理等への必要な助成	市指定文化財所有者等が抱える、維持管理や修理等、管理上の課題の把握に努め、文化財の修理・復元・伝承活動等に必要な助成を行います。	文化財課	・文化財の保護を図るため、小牧市指定文化財補助金交付要綱に基づき、所有者等が行う公開事業や維持管理事業等に対し、補助を行いました。また、市指定文化財管理者に対して、管理謝礼を支払いました。 ・令和6年度より年に1回、文化財管理状況調査を実施し、管理状況や維持管理上の問題点の把握に努めています。	B	文化財の保護・保存については、後継者不足や、維持管理・修繕費用等の財源確保の課題をはじめ、文化財の修復ができる技術者の減少など、様々な課題を抱えています	②	貴重な文化財を将来に引き継いでいけるよう、市指定文化財の管理状況や保護上の課題の把握を行い、必要に応じて先進事例の調査や、専門家への相談等を行うなどにより、適切な助言に努めるとともに、補助金交付要綱に基づいて助成を行います。		①掲載する	

No.	①基本目標	②施策	③具体的な取組名	内容	担当課	中間見直し以降の事業の実施状況	評価	④現状と課題	方向性	⑤内容（具体的な方向性）	③具体的な取組名（変更）	次期計画への掲載希望
181	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用	古文書・歴史に関する講座等の開催	古文書や歴史に関する講座、文化財巡り等を開催します。若い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めます。	文化財課	愛知文教大学に委託し、本市に関連する歴史や文化財を題材に、幅広い年代が興味関心をもって気軽に参加できるよう、年間を通じて様々な講座や講演会等を開催しています。 ・「小牧市歴史文化基礎講座」「歴史講座」 ・「子ども古文書寺子屋」「古文書基礎講座」「古文書実践講座」 ・「文化財巡り」	A	・古文書の解説に向けた古文書講座は、レベルに応じた講座を開催することで、徐々に受講者が増加しています。 ・小牧市の歴史や文化財に関心を持つきっかけとなるよう、様々なテーマで「小牧市歴史文化基礎講座」を開催していますが、受講者は減少傾向にあり、開催方法や実施回数など見直しを図る必要があります。 ・史跡小牧山の整備に合わせて、織田信長の小牧山城築城や小牧・長久手の合戦などをテーマとして開催する歴史講座などは、多くの方が参加しています。	②	・より多くの市民が市内に残る歴史や文化財に興味・関心を持つ機会となるよう、年代ごとでテーマや講座の開催方法、情報発信方法を変えるなど、様々な工夫に努めて実施します。		①掲載する
182	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用	文化財啓発イベントの開催	小中学生を対象に、小牧の歴史や文化をテーマとした検定や講座を行ったりする等、郷土への誇りや愛着を高めます。	文化財課	小牧市文化財資料研究会に委託し、地域に点在する歴史を取材し、記録・編集し、文化財図書として発行しました。また、子ども達に向けて「こまき検定（H28～R7）」を実施しました。 ・令和4年度『民具が語る』 ・令和7年度『小牧文化財散歩』	A	・「小牧市文化財資料研究会」は、市内の小中学校教員で組織しているため、教員の事業実施に対する負担が生じています。 ・また、小牧市制60周年を記念して始まったこまき検定の参加者について、毎年、受験する児童・生徒がいる一方、参加者数は伸び悩んでいることから、10回記念開催となった令和7年度をもって、毎年開催は見直しすることとし、周年事業としていきます。 ・児童・生徒をはじめ幅広い年代で探究学習（生涯学習）として、地域の文化財に目を向けられるような情報を発信する必要があります。	③	・子ども達が小牧の歴史や文化財に興味関心を持つきっかけとなるよう、令和8年8月オープン予定の「こまき歴史発見館」にて、「こまき検定」のミニ版がいつでも誰でもチャレンジできるようにしていきます。 ・小牧市文化財資料研究会と協力し、「探究学習」（生涯学習）として子ども達が調べてみたいくなるような情報を取りまとめ発信していきます。 ・令和8年度に開設予定のこまき歴史発見館において、子どもたちが小牧市の歴史や文化財について学習する場となるよう周知・活用を図っていきます。		②掲載しない
183	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用	民俗資料の整理・活用	収集した民俗資料の整理を行います。また、企画展示の開催等、民俗資料の活用方法について検討します。	文化財課	愛知文教大学に委託し、市が所有する民具の整理と分類・デジタルデータベースの作成を行いました。（R5-R6） ・整理した民具等を活用し、昔の人々の暮らしの知恵や工夫を知る機会となるよう、令和5年度より、民具展を年に1回、中央図書館イベントスペースで開催しました。 ・民具展では、小牧宿・養蚕・米作りの農具などのテーマを設定し、多くの方に見学していただくことができました。また、解説パネルや写真、ワークシート作成に加え、体験コーナーを設けたことで、より具体的に昔の暮らしを知っていただくことができました。	A	・市が所有する民具等は小牧山西側の民俗資料保存施設や倉庫に保管していますが、満杯となっているのに加え、保存状態は良いとはいえません。 ・民具を分類・整理し作成したデジタルデータベースをHP等に掲載できるように精査・加工し、民具をより知っていただけるよう活用していく必要があります。 ・引き続き、民具を実際に見たり触ったりする機会を設けていく必要があります。	②	・民俗資料を用いた企画展を継続実施するとともに、作成した民具のデジタルデータの精査・加工を行い、民具をより知っていただけるよう活用していきます。	民俗資料の活用	①掲載する
184	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用	文化財の紹介	文化財の価値を知り、理解を深めるため、文化財関連書籍や文化財マップ等の作成・配布、市ホームページへの掲載、現地に案内看板の設置を行います。	文化財課 小牧山課	・小牧市文化財資料研究会に委託し、こまき検定に出題された文化財等の現在の状況などを題材とした「小牧文化財散歩」を刊行しました。 ・愛知文教大学に委託し、古文書の活字化や旧道ガイドマップのやDVDの作成などを行いました。 ・発行した文化財地図は市HPに掲載し、閲覧できるようにしました。 ・令和7年8月6日に国の登録有形文化財（建造物）に登録された創垂館を紹介する立看板を、現地近くに新たに設置しました。 ・市内に点在する案内看板について、見回りを行い、老朽化等に対応し、随時修繕を行っています。	B	・過去に作成した書籍や文化財ガイドマップ、パンフレット等には、在庫が不足しているものもありますが、今後は環境保全の観点からも、印刷部数の見直しやデジタル化を進めていく必要があります。 ・文化財マップなど、地図をベースとしたものについては利用のしやすさを考慮し、紙印刷を基本としますが、デジタル化した際、スマホ等でも利用しやすいよう、今後記載内容や表示方法を検討していく必要があります。 ・市内（小牧山内を除く）には約70か所の文化財案内看板が設置されており、老朽化が進んでいるものもあります。	②	文化財の価値を知り、理解を深めるため、文化財関連書籍や文化財マップ等のデジタル化を進めます。また、文化財説明看板の更新・維持管理を引き続き行っていきます。		①掲載する

No.	①基本目標	②施策	③具体的な取組名	内容	担当課	中間見直し以降の事業の実施状況	評価	④現状と課題	方向性	⑤内容（具体的な方向性）	③具体的な取組名（変更）	次期計画への掲載希望
185	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策35 史跡小牧山の整備・活用	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進	令和7年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、歴史館周辺の石垣復元等の史跡整備工事を進めます。	小牧山課	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年3月に策定した「史跡小牧山保存活用計画」を踏まえ、発掘調査の成果に基づき、令和3年度から令和7年度まで5年をかけて、小牧山主郭地区の山頂周囲の石垣復元等史跡整備工事をを行いました。</li> <li>あわせて、令和7年度には整備した山頂付近について、現地を訪れた来訪者が、小牧山城の価値や魅力についてより深く理解できるよう、QRコードを用いたCGビューアー解説板の設置を行いました。</li> <li>令和6年度から令和7年度の2か年をかけて大手の登壇路の発掘調査を行いました。</li> <li>発掘調査で得られた成果等を広く知っていただくため、発掘調査の現地説明会を実施しました。</li> <li>史跡整備には多大な費用を要するため、財源確保の取り組みとして、寄付金募集を行いました。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査後は遺構保護を目的として埋戻しを行うため、見つかった遺構などを、直接見ることはできなくなります。このため、発掘調査の様子や得られた成果を正確に記録し、後世に伝えていく必要があります。</li> <li>令和7年度に完了した主郭地区の山頂周囲の石垣復元整備について、整備の経緯や成果を記録しておくため、報告書の作成が必要です。</li> <li>石垣等復元整備に伴い発掘調査を追加実施したエリアの一部においては、今後、さらに発掘調査を行ったうえで、史跡整備をすることとしたエリアもあります。</li> <li>令和2年3月に策定した「史跡小牧山保存活用計画」について、発掘調査で得られた新たな知見が加わったり、現状との相違が生じたりしている箇所などが生じており、改定が必要となっています。</li> <li>これまで復元整備が完了したエリアについて、適切な維持管理を行っていく必要があります。</li> <li>青年の家の廃止による解体・撤去に伴い、隣接する創垂館を含め、周辺の史跡整備を計画的に行う必要があります。</li> <li>未整備エリアと整備済みエリアの維持・補修をバランスよく実施していくための整備スケジュールの見直しも必要です。</li> <li>史跡整備や維持管理に向けて財源の確保に引き続き取り組む必要があります。</li> </ul>	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡整備の状況について、記録・保存に努めます。</li> <li>「史跡小牧山保存活用計画」の見直しを行います。</li> <li>史跡の復元整備の内容等を、来訪者により分かりやすく理解していただけるよう、CGビューアーの増設を含め、より適切な方法を検討し実施していきます。</li> <li>史跡小牧山保存活用計画に基づき、計画的に史跡整備を行っていきます。</li> <li>継続的に財源確保に向けた取り組みを行います。</li> </ul>	史跡小牧山主郭地区及び大手曲輪地区の整備の実施	①掲載する
186	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策35 史跡小牧山の整備・活用	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発	史跡小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を訪れた方により理解していただけるよう、小牧市歴史館や小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）の展示内容の更新を図ります。また、小牧山城での発掘調査成果を紹介する企画展示等の開催や、小牧・長久手の戦いに関する講座等を行います。	小牧山課 文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>小牧市歴史館は令和4年度に歴史民俗資料から戦国時代の小牧山を紹介する展示へ全面改装を行い、小牧山歴史館へと施設名を改正しました。</li> <li>小牧山城史跡情報館のエンタランスグラフィックや城郭シアターの映像に、小牧・長久手の合戦についての映像を追加しました。</li> <li>指定管理者により、発掘調査の速報展や石垣復元整備をはじめとする企画展示を行うとともに、レクチャールームにおいて、小牧・長久手の合戦などに関する講座を実施しています。</li> <li>愛知文教大学に委託し、小牧山に関する歴史講座を開催しています。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘調査の進展による新たな知見がある場合は、展示内容を改修して行く必要があります。</li> <li>山頂の2～3段の復元石垣が現地で実際に見学できるようになったことから、その価値や魅力について、理解していただけるような展示の工夫も必要です。</li> <li>れきしるこまきは、小牧山のガイドンス施設として、史跡小牧山の最新情報の提供に努めていますが、来場者数は減少しています。来場者数の増加に向けて新たなイベントの実施や更なる周知に取り組む必要があります。</li> </ul>	②	史跡整備が進む史跡小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を訪れた方により理解していただけるよう、小牧市歴史館や小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）、小牧市創垂館の指定管理者と協議を行い、展示改修をはじめ、企画展や講座、ワークショップ等を行います。		①掲載する
187	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策35 史跡小牧山の整備・活用	関係機関との連携	小牧市観光協会や織田信長、小牧・長久手の戦いにゆかりのある他市町等、関係機関と連携を行い、各種イベントの開催等を通じて、史跡小牧山への興味や関心をより深める取組を行います。	文化財課 小牧山課	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者である（一財）こまき市民文化財団において、小牧・長久手の合戦にゆかりのある市町で構成する「小牧・長久手合戦同盟」に参加し、学芸員によるトークセッションや城印の作成・販売など、様々な連携事業を行いました。</li> <li>大河ドラマ「どうする家康」放映に合わせ、岡崎城と連携し、歴史館、れきしるこまきの入館料の相互割引の実施や、愛知県主催のデジタルスタンプラリー等に参画し、史跡小牧山の持つ価値や魅力を多くの方々に知っていただく機会の創出に努めました。</li> <li>史跡整備に取り組む全国の市町村で組織する全国史跡整備市町村協議会の全国大会を小牧市に誘致・開催し、整備の状況を文化庁をはじめ多くの史跡整備担当者にご覧いただきました。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財担当部局のみでは史跡の持つ歴史的価値や魅力の周知には限界があるため、庁内観光担当部局とも、より一層情報共有を図り、連携してPRに努めていく必要があります。</li> <li>小牧山城は戦国時代以降、様々な歴史の舞台として登場する全国的にも稀有な名城であることから、史跡整備の進捗や大河ドラマの放映等に合わせ、様々な切り口やストーリーにおいて、継続的に広域的な連携を行い、価値や魅力を伝える取り組みが必要です。</li> </ul>	②	発掘調査で得られた新たな知見も加えつつ、史跡小牧山がもつ本質的価値が伝わるよう、小牧市観光協会や織田信長、小牧・長久手の戦いにゆかりのある他市町等、関係機関との連携を広げながら、イベントの開催等を通じて、史跡小牧山への興味や関心をより深める取組を行います。		①掲載する
189	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策36 地域資源を生かしたふるさと学習の推進	文化財啓発イベントの開催（再掲）	小中学生を対象に、小牧の歴史や文化をテーマとした検定や講座を行ったりする等、郷土への誇りや愛着を高めます。	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>小牧市文化財資料研究会に委託し、地域に点在する歴史を取材し、記録・編集し、文化財図書として発行しました。また、子ども達に向けて「こまき検定（H28～R7）」を実施しました。</li> <li>令和4年度『民具が語る』</li> <li>令和7年度『小牧文化財散歩』</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小牧市文化財資料研究会」は、市内の小中学校教員で組織しているため、教員の事業実施に対する負担が生じています。</li> <li>また、小牧市制60周年を記念して始まったこまき検定の参加者について、毎年、受験する児童・生徒がいる一方、参加者数は伸び悩んでいることから、10回記念開催となった令和7年度をもって、毎年開催は見直しすることとし、周年事業としていきます。</li> <li>児童・生徒をはじめ幅広い年代で探究学習（生涯学習）として、地域の文化財に目を向けられるような情報を発信する必要があります。</li> </ul>	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が小牧の歴史や文化財に興味関心を持つきっかけとなるよう、令和8年8月オープン予定の「こまき歴史発見館」にて、「こまき検定」のミニ版がいつでも誰でもチャレンジできるようにしていきます。</li> <li>小牧市文化財資料研究会と協力し、「探究学習」（生涯学習）として子ども達が調べてみたくなるような情報を取りまとめ発信していきます。</li> <li>令和8年度に開設予定のこまき歴史発見館において、子どもたちが小牧市の歴史や文化財について学習する場となるよう周知・活用を図っていきます。</li> </ul>		②掲載しない

No.	①基本目標	②施策	③具体的な取組名	内容	担当課	中間見直し以降の事業の実施状況	評価	④現状と課題	方向性	⑤内容（具体的な方向性）	③具体的な取組名（変更）	次期計画への掲載希望
190	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策37 市民との協働や大学と連携した歴史・文化の継承活動の展開	地域の伝統文化・伝統芸能の継承・保存	伝統文化・伝統芸能の担い手の増加に向けて、市ホームページやパンフレット、書籍等で地域の伝統文化・伝統芸能をPRしていきます。また、指定文化財の保存・継承・公開事業を支援します。	文化財課	パンフレットや、書籍『小牧文化財散歩』にて地域の伝統文化・伝統芸能をPRしました。また、貴重な文化遺産を後世に伝えるため、現在の祭りの様子を記録した映像資料『小牧神明社の春祭り』及び『小牧神明社の秋祭り』を作成し指定文化財の保存・継承に努めました。 ・指定文化財の保存・継承・公開事業の支援に向けて、国の補助金制度の活用を支援を行いました。 ・愛知県内各地に伝承されている山車の保存・活用に向けて愛知県が組織する「あいち山車まつり日本一協議会」に参加し、保存・継承・公開事業等についての情報共有に努めました。	B	・少子化や高齢化の進展に伴い、伝承活動の中心となる担い手や参加者が減少傾向にあります。 ・管理や担い手の高齢化や所有者の高齢化等により、維持・管理ができなくなっているものもあります。 ・これまで実際に消滅してしまった文化財等もあることから、どのように保存していくか、早急な対応が課題となっています。	③	・作成した記録映像資料等も活用し、ホームページやSNSをはじめ、様々な手段で積極的に周知することで、その価値や魅力、保存の必要性に対する市民の関心や理解を高めていきます。		①掲載する
191	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策37 市民との協働や大学と連携した歴史・文化の継承活動の展開	「大草のマメナシ自生地」の保護	令和3年3月に策定した『愛知県指定天然記念物「大草のマメナシ自生地」保存活用計画書』に基づき保護に努めるとともに、保護活動に取り組んでいる関係者間で情報を共有するための仕組みを検討していきます。	文化財課	・大良マメナシの里の整備が進んだこと、また、マメナシの自生地についてのPRに努めたことにより、まめなしの花の開花時期に合わせて実施している自生地観察会の参加者が年々増加しています。 ・それに伴い、保護活動に取り組んできた関係者や団体に加えて、市内企業や周辺の大学なども、保護活動に理解や参加を得られるようになってきました。	C	・市内企業や周辺大学の保護活動に対する理解や参加は得られるようになってきたものの、除草作業や実生周りの草刈など継続的に行う作業の担い手は、不足しているのが現状です。 ・マメナシ自生地の保護に向け、自主的に保護活動に従事してもらえる人員の確保とそれに向けた取組が課題となっています。	②	保護活動の様子を市ホームページで公開するなどにより、新たに作業に参加していただける個人・団体・企業の掘り起こしについて、庁内他課とも連携し進めていく必要があります。		①掲載する
192	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策37 市民との協働や大学と連携した歴史・文化の継承活動の展開	古文書・歴史に関する講座等の開催（再掲）	古文書や歴史に関する講座、文化財巡り等を開催します。若い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めます。	文化財課	愛知文教大学に委託し、本市に関連する歴史や文化財を題材に、幅広い年代が興味関心をもって気軽に参加できるよう、年間を通じて様々な講座や講演会等を開催しています。 ・「小牧市歴史文化基礎講座」「歴史講座」 ・「子ども古文書寺子屋」「古文書基礎講座」「古文書実践講座」 ・「文化財巡り」	A	・古文書の解説に向けた古文書講座は、レベルに応じた講座を開催することで、徐々に受講者が増加しています。 ・小牧市の歴史や文化財に関心を持つきっかけとなるよう、様々なテーマで「小牧市歴史文化基礎講座」を開催していますが、受講者は減少傾向にあり、開催方法や実施回数など見直しを図る必要があります。 ・史跡小牧山の整備に合わせて、織田信長の小牧山城築城や小牧・長久手の合戦などをテーマとして開催する歴史講座などは、多くの方が参加しています。	②	・より多くの市民が市内に残る歴史や文化財に興味・関心を持つ機会となるよう、年代ごとでテーマや講座の開催方法、情報発信方法を変えるなど、様々な工夫に努めて実施します。		①掲載する
193	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策37 市民との協働や大学と連携した歴史・文化の継承活動の展開	古文書の調査や民俗資料の整理の実施	大学など専門機関の技術やノウハウを活用し、古文書の調査や民俗資料の整理を行います。また、古文書についてはデジタルデータ化するなど、後世に伝える方策を検討します。	文化財課	愛知文教大学に委託し古文書の調査や民俗資料の整理やデータ化に取り組みました。 ・江崎家文書の解説・釈文・解説本の出版『天保十年 藩主御遺体御通行関連史料集—尾張藩十一代藩主斉温— 小牧宿』 『文政十三年～弘化三年 小牧宿問屋諸記録—混迷を深める小牧宿—』 ・民俗資料の整理・データベースの作成 ・民具の展示企画展	A	・市内に残る古文書の調査は終わっており、新たに探すことは困難な状況です。 ・古文書のデジタルデータ化について着手できていません。	③	・小牧市の歴史を紐解く手がかりとなる新たな古文書の発掘に向けた情報収集に努めます。		②掲載しない
194	基本目標 8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承	施策37 市民との協働や大学と連携した歴史・文化の継承活動の展開	歴史ガイドボランティアと連携した展示資料・文化財等の解説	小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）や歴史館、各種イベントなどにおいて、歴史ガイドボランティアによる展示資料や文化財等の解説を行います。	文化財課	・指定管理者において、ガイドボランティアを募集し15人程度が活躍しています。 ・ボランティアガイドは、れきしるこまきに土日祝日に常駐し、来館者を対象とした館内ガイドを実施しています。なお、令和7年9月からは毎月第4日曜日の午前中に館外ガイドも実施しています。 ・年に2回程度、史跡小牧山の最新の状況についてのレクチャーやガイド技術の向上にむけての研修を行い、ガイドボランティアのレベル向上に努めています。	A	・ガイドボランティアの活動は、れきしるこまきの館内が中心のため、館外ガイドも拡充していく必要があります。 ・令和8年度に新たに設置するこまき歴史発見館についても、ガイドボランティアの活躍が期待されます。	②	・ガイドボランティアの募集を行い、人員を増加する必要があります。 ・春休み・夏休みなど、土日祝日以外にもガイドの実施を拡充していきます。		①掲載する

## 【様式2】 今後10年を見据えた取組

No.	①現状と課題	②具体的な取組名	③内容（具体的な方向性）	④基本目標	⑤施策	⑤施策（新規）
入力内容	※今後10年を見据えた中で、次期計画に盛り込む必要のある、現状と課題を入力してください。	※具体的な取組名を記入してください。	※「具体的な取組」の内容を入力してください。	※現計画から、該当する「基本目標」をタブから選択してください。	※現計画から、該当する「施策」をタブから選択してください。 ※現計画の「施策」に無い場合は、空白にし、右のセルに仮の「施策名」を入力してください。	現計画の「施策」に無い場合 → 「〇〇の推進」「〇〇の充実」など
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小牧山の史跡整備は平成13年度から開始しており、整備済みの箇所に劣化がみられます。</li> <li>・史跡整備が進むにつれ、除草や清掃・点検等、維持管理にかかる業務が増加しています。</li> <li>・小牧山の北側園路である通称五段坂は、未整備の園路ですが、大雨が降ると地面の土が流れて凸凹し、通行に支障が生じている状況のため、随時の補修を行う必要があります。</li> <li>・小牧山は伊勢湾台風以降、桜を始めとして多くの樹木が植樹され、現在は巨木化・老木化が進んでおり、落枝・倒木が相次いでいます。このため、適切な剪定や伐採、老木化した桜の更新などを行っていく必要があります。</li> <li>・小牧山は市民の憩いの場としても親しまれていますが、来訪者の増加に伴い、ごみのポイ捨てや動物の餌やりなど、ルールを守らない利用の増加や、それに伴い利用者同士のトラブルや、見回りなど対応する職員の負担が多くなっています。</li> </ul>	小牧山の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡小牧山の整備済みのエリアについて、適切な維持管理を行っていきます。</li> <li>・小牧山を訪れた方が安心・安全に利用できるよう、老朽化した施設や園路の修繕を行うとともに、巨木化、老木化した樹木の維持・管理に努めます。</li> <li>・史跡小牧山の来訪者が快適で安心安全に利用できるよう、ルールのさらなる周知や、管理体制の整備に努めます。</li> </ul>	基本目標8「郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承」		現計画の「施策」に無い場合 → 史跡小牧山の維持・管理
2	ラピオ4階に新たに整備する、「こまき歴史発見館」は、商業施設である1階やこまきこども未来館がある2～3階と比べ、人通りが少なく、場所も分かりにくい位置にあります。市内唯一の市の通史を紹介する展示施設であるため、多くの方にPRし、活用を図っていく必要があります。	こまき歴史発見館の周知・活用	小牧山歴史館や小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）、こまき歴史発見館周辺の各施設と相互連携したイベント等を開催することにより、多くの方に来館していただけるよう努めるとともに、市内外に周知を図っていきます。	基本目標8「郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承」	施策34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用	計画の「施策」に無い場合 →